

浄泉寺護寺会報

URL <http://e-jousenji.com/>

発行者 浄泉寺護寺会会長 庄 司 寿 夫

新しい一步を求めて

浄泉寺護寺会 会長 庄 司 寿 夫

「戦争のなきまま終わる平成と
無きことを祈る次の元号」

朝日歌壇(平成31年 1 月 1 日)

5 月 1 日から新しい元号がスタートしました。新元号「令和」は「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つという意味が込められている」と言われています。新しい令和の時代も、平和な時代であること願っています。

さて、令和最初の浄泉寺護寺会総会が、慣例により 6 月の最後の日曜日、6 月 30 日、午後 1 時から開催されました。

本堂左前に 10 年前植えられた泰山木(モクレン科の常緑高木)が雨に濡れて約 40 名の門徒を迎えてくれました。

浄泉寺護寺会が設立されたのは、昭和 50 年頃と聞いています。それから昭和・平成・令和と約 43 年の歳月が流れています。その間、ご住職のご指導のもと、先輩役員の方々、ご門徒皆様の御支援によって今日まで運営されて来ましたことに対し深く感謝申し上げます。

寺院にはハード的な面とソフト的な面から成り立っています。ハード面では、本堂・庫裡の新築等、最近では焼却炉・水洗場の改築が進められています。水洗場のポリバ

ケツに「浄泉寺同朋の会」と蘇武則行様に白いペンキで達筆に書いていただきました。このポリバケツは、最近 3 度目の備品です。お互いに大事に使い、そしてお墓への花やお供物は、是非ご家庭に持ち帰りをお願い申し上げます。

また、ソフト面では、同朋の会が設立されて 6 年目を迎えています。毎月 20 日定期に開かれています。毎回 20 数名の会員皆様が参加しています。

結びに、昨年 3 月に、前会長赤間榮夫様、今年 1 月に前々会長岸順幸様が逝去されました。この紙面をお借りして哀悼の言葉を申し上げます。

また、「何らかの不安、何らかの情念、何らかの苦しみがなくては、幸福と云うものは生まれてこないのだ」と言われています。

これからも、数多い門信徒の法灯を守り、親から子へ、子から孫へ、人から人へ、心から心への真実の歩みを求め続けたいと思います。と同時に「開かれたお寺」として、聞法場をひろげ、確かな仏の道・新しい一步を着実に進んでいきたいと思ひます。

それには、今まで以上に皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

「老」入門

浄泉寺 副住職 赤羽根 聡



「若いモンが」という指摘を承知の上で書き記すことをお許しいただきたい。

元号が変わり昭和、平成、令和と三代を生きる身となった。これだけ年を重ねてきたのだから、体のあちこちに少々のがたがきても不思議ではない。まず腰が痛い。前かがみになると余計に痛みが増すようになった。次に膝が痛い。姿勢が悪いせいか、左右の足の長さがやや違う。右膝の裏がポキポキ鳴るようになった。となると、両脚の感覚も違ってくる。階段を上り下りする動きは慎重を期するようになった。上半身の方に目を移すと、肩こりがひどい。いろんなストレッチを試みるが、痛みはいっこうに退かない。そのせいか目も疲れる。最近と同僚の老眼のことを揶揄していたが、目がかすむとはこういうことなのだろうかと思うようになった。聴力はどうかだろう。奥方の話を二度聞き、もしくは聞こえたふりをして頷くことが増えた。髪の毛のほうは家系上とは裏腹に、かろうじて健闘している。しかし先日、理髪店に行ったところご主人に「白髪増えたっスねえ」と言われた。ご主人は余計にそう感じたのだろう。

一方、気持ちの方はより若くありたいと思っているが、なかなかそうはいかない。些細なことでイライラすることが多くなった。自分の思い通りにならないことが多すぎるからだ。理由は歴然としている。しかし何の打開策も講じないまま即、冷蔵庫へ直行。ひとり飲みが始まる。もう一本、ついもう一本と缶を開ける。一夜明け、何事もなかったかのような朝を迎えるが、レバーブローのようなダメージはどのくらい蓄積されているのだろうか。奥方や母親からは「イッソ飲んでバリ」と叱責を受け、またイライラし、飲み始める。負のスパイラルだ。何か良い意味で変わったことはないかと考えてみると……あった。早起きするようになった。しかも午前3時の超早朝起きである。

……老いというのはこういうことなのだろう。その老いがついに到来したのだ。お釈迦様は王子だった時分、東門から出遊した際に老人に会い、「私もこのようになるのか」と従者に質問したのだという。そしてその事実を受け取り、自覚したのである。そう考えると、「老」の現象で良し悪し言っている私なぞは愚の骨頂なのだろう。「老」は四苦のひとつであり、その現象の一つひとつが自身に対する呼びかけになっているのだろう。これが「老」なのだぞ、と。面倒なのだが立ち止まって、その呼びかけにひとまず耳を傾けてみるとしよう。現時点での、私のいのちと向き合いながら。

合 掌

令和元年春のつどい開催



令和元年5月19日午後1時30分、お釈迦様の誕生が4月8日宗祖親鸞聖人が4月1日と、春は出生出発の時を機に毎年この時期、浄泉寺本堂にて「春のつどい」が開催されます。今年のつどいは、昨年とほぼ同様に進められスタッフも6年目とあって、しっかりと対応しておりました。

帰敬式受式者は5名。厳かな中に緊張感溢れる素晴らしいものとなりました。

帰敬式とは「おかみそり」とも言われ、宗祖親鸞聖人の教えに自らの人生を問いたずね、真宗門徒として歩み出すことを誓う大切な儀式で、受式されると「法名」が授与されます。(受式希望者は、浄泉寺住職(☎72-1168)に直接お申込み願います)

この式中、庄司護寺会長のご挨拶の中で、朝日歌壇に載った一句が紹介されました(会報24号1ページ参照)。戦争が無く終わった平成と次の元号での戦争が無いことを願う句です。

戦争を起こしてはならないと願う真宗門徒にとっては、最も大事な句であろうと思います。この句にある願いが「真宗に生きる」ことを指すものと思います。

帰敬式は真宗本廟(東本願寺)で毎日行われており、無い日を除き受式出来ます。浄泉寺門徒の方では、これまで14名の方々が受式しております。

令和元年度護寺会総会報告

令和元年6月30日、浄泉寺護寺会総会が開催されました。出席者全員による真宗宗歌斉唱、正信偈唱和、俱会一處前での読経焼香の後、総会開会。

庄司寿夫会長あいさつ、住職あいさつと続き、千葉正人氏(東川原町)が議長に選出され、事業報告等7議案を審議。

すべて満場一致で可決承認されました。

令和元年度総会議案

平成30年度事業報告

平成30年度収支決算報告

平成30年度特別会計決算報告

(維持改善基金・上山研修基金)

監査報告 監事佐藤厚氏

令和元年度事業計画の承認

令和元年度収支予算の承認

総会終了後には懇親会が行われ会員相互の親睦をはかりながら盛会裏に終了しました。

帰敬式受式者研修会

既に帰敬式を受けられた方々を対象に下記のとおり研修会を実施します。

お忙しいことと存じますが、是非ご参加くださいます様ご案内申し上げます。

… 記 …

日時：9月11日(水)午前10時より

場所：浄泉寺本堂

会費：2千円(昼食代含)

9時30分 受付

10時 開会・勤行

10時30分 講義

12時 … 昼食休憩 …

13時 講義・質疑

15時30分 恩徳讃斉唱 閉会

16時 懇談・懇親

18時 解散

同朋の会から墓参用品寄贈

今年同朋の会総会で承認いただきました墓参用のバケツ及びひしゃく20組を購入し、備品として同朋の会から浄泉寺に寄贈されたものです。

以前にも寄贈を受けた用品を利用させていただいておりましたが、お寺から持ち帰る方がいらっしゃるのかどうかは分かりませんが、問題となっておりましたので、今後このようなことの無いようにお願いしたいと思います。

用意していただいた備品には、護寺会庶務蘇武さんのご協力をいただき、ペンキで「浄泉寺同朋の会」と書かれております。

お寺にまいられます全ての方がお使いになるものですので、大切にご利用されます様お願いいたします。

護寺会役員研修会結果

今年2月に行われた浄泉寺護寺会役員研修会で「お墓のあげもの」について協議され、次の様に決定いたしました。

- お墓にあげた食べ物等はその場で食べるか自宅に持ち帰って生ゴミとして処理する(親戚・知人等があげたものも同じ)。
- お墓にあげたお花はお墓の持ち主が責任をもって片付ける。

お知らせ

万灯籠会開催

8月13日から16日までの毎日午後6時30分から8時まで、万灯籠会(まんとうろうえ)が行われます。境内に灯籠を灯すお盆の恒例行事で、幻想的な雰囲気の中での墓参りは、夜の風物詩ともなりました。ご家族揃ってお出かけください。

灯籠記名のお申し込み(一基千円)は、地区役員までご連絡ください。

これからの行事等

- 8月 一斉清掃(墓地、境内地)、各自の墓地と本堂境内周辺
- 9月 帰敬式受式者研修会
- 10月 東北別院報恩講参詣
- 11月 おみがき・報恩講
- 31年1月 修正会(しゅしょうえ)

○造花は上げられません。この決定事項は何処のお寺でも問題になっております。

最近、ゴミ問題は大気汚染につながると新聞等で騒がれておりますが、浄泉寺においても同じです。

快適な環境でお寺を活用出来る様にするには、門徒皆様に一層のご協力をいただかなければなりません。皆様方の更なるご協力をお願いいたします。

あ

と

が

き

ピッカピカの車から降り、靴に履き替えて、真つ先に車の中からゴミ箱を取り出し、寺のゴミ置き場にパツパとゴミを捨てる。

自分家の墓は美しく整理されているが周囲の環境には全く無関心で無神経なの？

ならばということ、寺のゴミ置き場は撤去しました。「ゴミはすべて持ち帰りです」と決定!!

：これまでのわがままでガンコな自分を貴方は変えられないの…?

寺や駐車場脇の内川にゴミをポイする人をよく見かけるのだが、何処にでもポイではあまりにも情けない。生涯を途して遇わねばならない唯一の人、それは私自身。

「喝!!」これは禅宗か…。
南無阿弥陀佛 (住職)